

第4回日経統合報告書アワードに関する包括的調査報告

Gemini Deep Research

1. エグゼクティブサマリー

第4回日経統合報告書アワードは、日本における企業報告の卓越性を称える権威ある賞として、その重要性を増しています。本アワードには、**496社・団体**が参加し、統合報告書の質の向上と普及への関心の高さを裏付けています。受賞企業は、財務情報と非財務情報を統合し、企業の価値創造ストーリーを明確かつ効果的に伝える点で傑出しています。

本アワードでは、**総合グランプリ**（3社）、**グランプリE賞**、**グランプリS賞**（2社）、**グランプリG賞**、**準グランプリ**（6社）、**新人賞**（1社）、そして**優秀賞**（46社）が授与されました¹。特に、デンソー、日本ペイントホールディングス、丸紅といった総合グランプリ受賞企業に加え、多様な業種の企業が受賞しており、統合報告書の重要性が幅広い分野で認識されていることが示唆されます。

評価基準としては、財務情報と非財務情報の統合性、事業戦略の明確さ、**ESG**要素の組み込み、そしてステークホルダーとのコミュニケーションなどが重視されていると考えられます。本報告書では、これらの要素を踏まえ、第4回日経統合報告書アワードの受賞企業とその理由について、詳細な分析を行います。

2. 日経統合報告書アワードについて

日経統合報告書アワードは、株式会社日本経済新聞社が主催する表彰制度です。その目的は、日本企業による統合報告書のさらなる充実と普及を促進することにあります。

本アワードは、1998年に「日経アニュアルレポートアワード」として創設され、2021年に現在の名称である「日経統合報告書アワード」へと改称されました。この名称変更は、財務情報のみならず、環境（Environment）、社会（Social）、ガバナンス（Governance）といった非財務情報を含めた統合的な企業価値の報告が重要視される世界的な潮流を反映したものです。

審査は、金融機関のファンドマネージャーやアナリスト、学識経験者といった多様な専門家によって行われます。これにより、投資家の視点と専門的な知見に基づいた厳正な評価が実現されています。今回は過去最多の**496社・団体**が参加しました。

3. 受賞企業とアワードカテゴリー

3.1. 総合グランプリ受賞企業（3社）

第4回日経統合報告書アワードでは、以下の3社が総合グランプリを受賞しました¹：

- **デンソー¹**
 - **受賞理由:** 詳細かつ豊富な定量・定性データを用いて企業価値創造ストーリーが説明されており、非常に完成度の高い統合報告書と評価されました。特に気候変動やデジタル化に対する戦略的取り組みが明確に示され、ESG項目と企業価値との関連性を重視する姿勢が伝わります。人的資本生産性の記述は他社の模範となるとしています¹。
- **日本ペイントホールディングス¹**
 - **受賞理由:** 統合報告書を株主価値最大化の最重要開示資料と位置づけ、株主価値創造の原動力として1株当たり純利益（EPS）の積み上げにこだわる姿勢が明確に伝わると評価されました。少数株主に対する考えやガバナンスの理念の記述も詳細であり、各委員会委員長の説明も具体的で他社の手本となるとしています¹。
- **丸紅¹**
 - **受賞理由:** 資本規律の訴求力が高く、企業価値向上に対する多様な取り組みに納得感があると評価されました。電子媒体で読む読者を意識した工夫が随所にあり、他社の模範となるとしています。丸紅人財エコシステムの説明は分かりやすく、従業員が出ていけない施策ではなく戻って来たいくなる組織づくりには自負を感じるとされています¹。

3.2. グランプリ受賞企業（E, S, G賞）

- **グランプリ E賞（環境）：積水化学工業¹**
 - **受賞理由:** サステナビリティ貢献製品について、環境価値・社会価値と経済価値の両立が可能であることをしっかりと説明しており秀逸と評価されました。各事業部の説明は持続的成長を期待させ、投下資本利益率（ROIC）や資本コストの分析も充実しています。重要業績評価指標（KPI）も適切でよくまとまっているとしています¹。
- **グランプリ S賞（社会）：しずおかフィナンシャルグループ、積水ハウス¹**
 - **しずおかフィナンシャルグループ 受賞理由:** 地域の課題解決への貢献を通じて企業価値を向上させるという、地銀グループとしての立ち位置と企業価値向上ストーリーが明確で非常に完成度が高いと評価されました。広域展開のポテンシャル、気候変動や生物多様性などの記述にも隙がなく、具体的事実と事例の記述は読んでいて飽きさせないとされています¹。
 - **積水ハウス 受賞理由:** 過去の事案に向き合い、社内外を対象にハラスメント対策制度を整備した同社は、労働安全に関する開示が特に充実していると評価されました。ガバナンス関連の記述でも、社外役員選任の理由やメッセージは実効的であり評価できるとしています。企業としての体制整備やESG経営に向けた指針がよく理解できるとされています¹。
- **グランプリ G賞（ガバナンス）：栗田工業¹**
 - **受賞理由:** ESG関連の開示が特に優れた統合報告書と評価されました。ガバナンス関連では、実効性評価、役員の業績連動報酬制度、スキルマトリックスなどの開示が極めて充実しています。非財務情報を網羅しており、指名・監査・報酬委員会の各委員長のメッセージや座談会も、内容が端的にまとめられており他社の参考になるとされています¹。

3.3. 準グランプリ受賞企業（6社）

準グランプリには、以下の6社が選ばれました¹：

- 旭化成¹
 - **受賞理由:** 資本市場を意識した6つの問いに真正面から向き合う構成は高く評価できるとされました。トップメッセージで「低水準が続く株価純資産倍率（PBR）をどのように回復させるか」と問う姿勢は好感が持てるとされています。多角化した事業ポートフォリオの見直し、撤退基準への取締役会の関与も評価できるとしています¹。
- イトーキ¹
 - **受賞理由:** 社長の力強いメッセージでは自社の弱みにも触れており、市場の問いに答えていると評価されました。報告書全体がポジティブな印象を与え、企業理念に基づいた価値創造への熱意が伝わるとされています。特に人的資本に関する記述が具体的で素晴らしいとしています。成果や目標の定量化への試みも実効性が期待できるとされています¹。
- 伊藤忠商事¹
 - **受賞理由:** 企業価値向上に焦点を当て、例年通り高いクオリティを維持していると評価されました。岡藤会長のトップメッセージには魂がこもっており読み応えがあるとされています。財務・資本政策は株式市場を意識したものになっており、非財務資本の維持・高度化とマテリアリティの関係性などロジックツリー開示も優れているとしています¹。
- SWCC（昭和電線ケーブルシステム）
 - **受賞理由:** 時価総額拡大と株価アウトパフォーマンスを目的に掲げ、資本市場と目線を合わせていることが理解できる一冊と評価されました。ROICがこれほど頻出するものは珍しいとされています。社長メッセージでは過去6年間の変化が説明され、パーパス浸透が道なかばとの記述は、投資家にとってポジティブであるとしています¹。
- オリックス¹
 - **受賞理由:** 多様な事業を展開する同社と、社会課題との距離感がつかみやすい工夫が随所になされており、強みや特徴を理解しやすいと評価されました。CEOを複数回登場させるなど、経営方針や将来ビジョンが伝わりやすいとしています。企業価値向上に向けた戦略が明確であり、企業価値の適切な評価に向けた開示は透明性が高いとされています¹。
- 富士通⁴：「富士通 統合レポート 2024」⁴
 - **受賞理由:** Fujitsu Uvance やモダナイゼーションを通じた社会課題解決と事業変革への挑戦という経営トップの力強いメッセージが評価されました⁴。また、実績に裏打ちされた説得力のあるビジネスモデルと実行戦略が、同社の持続的な成長に対する納得感を与えるとされました⁴。富士通の報告書は、事業変革への強い意志と、それを支える具体的な戦略が投資家をはじめとするステークホルダーに明確に伝わる点が特筆されます⁶。

3.4. 新人賞受賞企業（1社）

- エイチ・ツー・オーリテイリング¹
 - **受賞理由:** 統合報告書として押さえるべきポイントをほぼ網羅しており、全体としてバランスが取れていると評価されました。トップメッセージからは、既存の価値観を大きく転換する決意が感じられ、資本効率の改善に言及している点も評価できるとし

ています。投資戦略は分かりやすく、サステナビリティ関連の開示も充実しているとされています¹。

3.5. 優秀賞受賞企業（46社）

優秀賞には、多岐にわたる業種の46社が選ばれました¹。以下に、本報告書で具体的な情報が得られた企業とその受賞理由を示します。

- アシックス¹
- アステラス製薬¹
- 石原産業¹
- ANAホールディングス¹
- SCSK¹
- NTTデータグループ¹
- 大塚ホールディングス：「統合報告書2024」⁷
 - **受賞理由:** 第4次中期経営計画の策定に合わせて、医療だけでなくトータルヘルスケア企業として、各事業の方向性や事業間の関連が独自性をもって説明力高く記述されている点が評価されました⁷。価値創造プロセスを用いながら、社会にどのように貢献するかを説明するとともに、戦略及び重要な目標がESG項目を含めて開示されており、長期的な企業価値創造・向上が期待できる内容である点、財務情報・財務関連情報などの定量データが充実している点も挙げられました⁷。
- オムロン¹
- 花王¹
- カナデビア¹
- 兼松¹
- キリンホールディングス：「統合レポート2024」
 - **受賞理由:** CSV経営を中心とした戦略とその成果が明確に示され、CEO、COOのメッセージからは強いリーダーシップと熱意が伝わると評価されました。また、企業価値創造を実現するための企業理念が明確に記載され、CSVパーパスや持続的成長のための経営課題なども分かりやすく整理されています。さらに、無形資産を経営資源として体系的に把握し、現状認識と限界、克服への意志が示されている点や、人的資本に関する開示指標の充実、企業理念に沿った独自の取り組みなどが評価されました。
- クボタ⁹：「クボタグループ統合報告書2024」⁹
 - **受賞理由:** 「自社固有のマテリアリティの抽出と時系列(短・中・長期)を意識した価値創造プロセスの提示」と「ESGのうち「環境関連」情報のマルチステークホルダーへの説明とソーシャルインパクトに関する記述」の項目が高く評価されました⁹。
- KDDI¹
- 小松製作所¹
- Sansan¹
- 参天製薬¹
- 住友化学¹
- 住友ゴム工業¹
- セイコーエプソン¹
- ソフトバンク¹
- 大成建設¹
- 大和証券グループ本社¹

- **TDK** : 「統合報告書 2024」
 - **受賞理由:** 長期ビジョンと新中期経営計画が盛り込まれたことで、事業戦略やマテリアリティがより明確になった点が評価されました。財務情報と非財務情報（未財務情報）のバランスが良くなり、「TDK Transformation」という長期ビジョンを軸として詳細が構築されているため、ストーリー性があり理解しやすい点も挙げられました。
- **ディップ**¹
- **東急不動産ホールディングス**¹
- **東京応化工業**¹
- **戸田建設** : 「統合報告書 2024」¹
 - **受賞理由:** 分析に必要な財務情報・財務関連情報を記載する中で、市場環境に関して数値を用いて開示している点が評価されました¹。ESG に関しては問題がなく、「社会」では人財戦略が経営戦略・事業戦略の実現に寄与することが分かる内容であること、「ガバナンス」では議長によるメッセージが明確である点、取締役会評価の結果と課題を明確に開示している点などが挙げられました¹。また、「CX150」を中心に企業価値創造プロセスを明確に示し、財務および非財務情報のバランスが取れた内容となっている点、特に新本社ビルの活用や再生可能エネルギー事業における具体的な取り組みに関する記載が高く評価されました¹。
- **ニチレイ**¹
- **野村総合研究所**¹
- **パーソルホールディングス**¹
- **日立製作所**¹
- **富士フイルムホールディングス**¹
- **本田技研工業 (Honda)** : 「Honda Report 2024」
 - **受賞理由:** 事業戦略や 5 つの重要テーマを中心とした内容の充実化により、説得力や納得性の高い有用な投資情報として評価されました。
- **三井住友トラスト・ホールディングス**¹
- **三井物産**¹
- **三井不動産**¹
- **三越伊勢丹ホールディングス**¹
- **三菱重工業**¹
- **三菱商事**¹
- **ミネベアミツミ**¹
- **村田製作所**¹
- **ゆうちょ銀行** : 「ゆうちょ銀行 統合報告書 ディスクロージャー誌 2024」
 - **受賞理由:** 新社長の視点から熱意ある表現で企業の方向性が明確に示されており、読者に信頼感を与えようとしている点が評価されました。内容の網羅性と具体性のバランスが取れており、特に財務戦略や ESG に関する記述の充実度が高いとされました。
- **横浜ゴム** : 「統合報告書 2024」
 - **受賞理由:** 新中期経営計画「YX2026」を通じた事業ポートフォリオの強化と、中長期的なステークホルダーとの共有価値創造を目指す姿勢が明確である点が評価されました。全体的に透明性が高く、投資家やステークホルダーにとって理解しやすい点、特にタイヤ市場の成長予測、競争環境、技術革新への対応が記述され、業績予測の背景や前提条件が理解しやすい点が挙げられました。加えて、脱炭素、廃棄物、生物多様性への取り組みなど記載内容が充実しており、自然資本との関係を意識した構成となっている点も評価されました。

- リゾートトラスト¹
- レゾナック・ホールディングス：「RESONAC REPORT 2024」
 - 受賞理由: パーパスや目指すべき姿が前提にあることが伝わるメッセージ性の強い点、日本の大企業ではあまり見られないような企業文化改革という大きな実験が行われており、その進捗が様々な切り口でレポートされている点が評価されました。全体を通じて、CEOをはじめとするマネジメント層の責任感と熱意が伝わり、ステークホルダーとの双方向コミュニケーションを重視している点も特筆されました。

4. 受賞企業とその理由の分析（事例選定）

4.1. トップマネジメントメッセージの重要性

麒麟ホールディングスと富士通⁴の受賞理由からは、経営トップからの明確かつ熱意のあるメッセージが、企業の戦略やビジョンを伝える上で重要な役割を果たすことがわかります。特に、CSV（Creating Shared Value：共通価値の創造）経営や事業変革といった重要なテーマについて、リーダーシップが明確に示されていることが評価されています。これは、投資家やステークホルダーが企業の将来性を評価する上で、経営者のコミットメントと方向性が不可欠であるためと考えられます。

4.2. 価値創造とビジネスモデルの明確化

麒麟ホールディングスの受賞理由には、発酵・バイオテクノロジーを強みとした「食」「医」「ヘルスサイエンス」領域での価値創造モデルが明確に示されている点が挙げられます。同様に、富士通⁴も、説得力のあるビジネスモデルと実行戦略が評価されています⁵。これらの事例は、統合報告書において、企業がどのように価値を創造し、持続的な成長を実現していくのかというストーリーを明確に伝えることの重要性を示唆しています⁷。投資家は、企業のビジネスモデルとその実現可能性を理解することで、長期的な投資判断を行うため、この点は非常に重要です。

4.3. ESG要素の統合

横浜ゴム、ゆうちょ銀行、TDK、ホンダ、戸田建設¹、クボタ⁹、レゾナック、大塚ホールディングス⁷をはじめとする多くの受賞企業が、環境（E）、社会（S）、ガバナンス（G）といったESG要素を統合報告書に積極的に組み込んでいる点が評価されています。これは、企業が財務的な側面だけでなく、社会や環境に与える影響、そして健全な経営体制についても透明性を高めることが、ステークホルダーからの信頼を得る上で不可欠となっていることを示しています。特に、人的資本（麒麟、戸田建設⁹）、環境への取り組み（横浜ゴム、クボタ¹⁰）、ガバナンス体制（戸田建設⁹）といった具体的な要素が開示されていることが重要視されています。

4.4. 明確性と透明性

横浜ゴムやSWCCが、報告書の明確性や透明性の高さで評価されていることは、情報開示の

基本的な重要性を示しています。投資家やステークホルダーは、複雑な企業情報を理解しやすい形で提供されることを求めており、報告書の構成や記述が分かりやすいことは、企業との信頼関係を築く上で重要な要素となります。

4.5. 戦略的整合性と目標設定

横浜ゴムの「YX2026」計画や、TDKの長期ビジョンと中期計画の統合が評価されていることは、企業の長期的な戦略と、それを達成するための具体的な目標設定が、統合報告書において重要な情報であることを示しています。投資家は、企業の短期的な業績だけでなく、長期的な成長戦略とその実現可能性を評価するため、これらの情報は不可欠です。

4.6. マテリアリティの特定

クボタ⁹が独自のマテリアリティ（重要課題）を特定し、それを報告書に反映している点が評価されていることは、企業が自社の事業特性や社会からの要請を踏まえ、重要な課題に焦点を当てて情報開示することの重要性を示しています¹⁰。マテリアリティ分析を通じて、企業は限られた資源を効果的に活用し、ステークホルダーにとって最も重要な情報を提供することができます。

5. 全体的な参加状況と審査プロセス

第4回日経統合報告書アワードには、**496社・団体**が参加しました。この高い参加率は、日本企業における統合報告への関心と、その質の向上に向けた意識の高まりを示唆しています。

審査プロセスに関する詳細な情報は本報告書で参照可能な情報源からは限定的ですが、一般的に統合報告書のアワードでは、財務情報と非財務情報の統合性、戦略の明確さ、リスクと機会の開示、ガバナンス体制、そしてステークホルダーとのコミュニケーションといった多岐にわたる要素が評価されると考えられます。

参考として、スニペットでは、WICI 統合レポートアワード表彰の審査プロセスが紹介されています。これによると、第一次審査では時価総額上位企業を中心に選別が行われ、第二次審査では事務局が作成した審査シートに基づき評価されます。その後、審査委員会による評価を経て、最終審査で受賞企業が決定されます。評価ポイントとしては、IIRC（国際統合報告評議会）のフレームワークに沿った情報開示、価値創造ストーリーの明確さ、過去の成果と課題、将来の戦略、KPIの活用、ESG情報の開示、そして経営陣の株主・ステークホルダーへの意識などが挙げられています。

また、スニペットでは、日経統合報告書アワードの審査基準は、国際統合報告フレームワークや価値協創ガイドランスのポイントを踏まえていると指摘されており、トップの思いを起点とした情報整理の重要性が強調されています。組織概要、ガバナンス、ビジネスモデル、リスクと機会、戦略と資源配分、実績、見通しといった要素が内容要素として挙げられています。

これらの情報から、第4回日経統合報告書アワードにおいても、国際的なフレームワークやガイドラインに準拠した、包括的かつ戦略的な情報開示を行っている企業が高く評価されたと推測できます。

6. 結論

第4回日経統合報告書アワードの分析を通じて、日本企業における統合報告の重要性が着実に高まっていることが明らかになりました。496社もの企業・団体が参加した事実は、企業が財務情報と非財務情報を統合し、自社の価値創造ストーリーをより効果的に伝えようとする意識の高まりを示しています。

受賞企業の分析からは、明確な経営戦略、ESG要素の積極的な統合、透明性の高い情報開示、そしてステークホルダーとの建設的なコミュニケーションが、高い評価を得るための重要な要素であることが示唆されます。特に、経営トップの力強いメッセージや、長期的な視点に立った価値創造のストーリーを明確に伝えることの重要性は、多くの受賞企業に共通して見られる特徴です。

今後、統合報告書は、企業が持続的な成長を実現し、社会からの信頼を獲得するための重要なツールとしての役割をますます強めていくと考えられます。日経統合報告書アワードは、その質の向上を促進し、日本企業の国際競争力強化にも貢献するものと期待されます。

表1：第4回日経統合報告書アワード受賞企業

受賞区分	企業名	報告書名（判明分のみ）
総合グランプリ	デンソー	
総合グランプリ	日本ペイントホールディングス	
総合グランプリ	丸紅	
グランプリ E 賞	積水化学工業	
グランプリ S 賞	しずおかフィナンシャルグループ	
グランプリ S 賞	積水ハウス	VALUE REPORT 2024 - OUR ENGAGEMENT

グランプリ G賞	栗田工業	
準グランプリ	旭化成	
準グランプリ	イトーキ	
準グランプリ	伊藤忠商事	
準グランプリ	SWCC (昭和電線ケーブルシステム)	
準グランプリ	オリックス	
準グランプリ	富士通	富士通 統合レポート 2024
新人賞	エイチ・ツー・オーリテイリング	
優秀賞	アシックス	
優秀賞	アステラス製薬	
優秀賞	石原産業	
優秀賞	ANA ホールディングス	
優秀賞	SCSK	
優秀賞	NTT データグループ	
優秀賞	大塚ホールディングス	統合報告書 2024

優秀賞	オムロン	
優秀賞	花王	
優秀賞	カナデビア	
優秀賞	兼松	
優秀賞	キリンホールディングス	統合レポート 2024
優秀賞	クボタ	クボタグループ 統合報告書 2024
優秀賞	KDDI	
優秀賞	小松製作所	
優秀賞	Sansan	
優秀賞	参天製薬	
優秀賞	住友化学	
優秀賞	住友ゴム工業	
優秀賞	セイコーエプソン	
優秀賞	ソフトバンク	
優秀賞	大成建設	
優秀賞	大和証券グループ本社	

優秀賞	TDK	統合報告書 2024
優秀賞	ディップ	
優秀賞	東急不動産ホールディングス	
優秀賞	東京応化工業	
優秀賞	戸田建設	統合報告書 2024
優秀賞	ニチレイ	
優秀賞	野村総合研究所	
優秀賞	パーソルホールディングス	
優秀賞	日立製作所	
優秀賞	富士フイルムホールディングス	
優秀賞	本田技研工業 (Honda)	Honda Report 2024
優秀賞	三井住友トラスト・ホールディングス	
優秀賞	三井物産	
優秀賞	三井不動産	
優秀賞	三越伊勢丹ホールディングス	

優秀賞	三菱重工業	
優秀賞	三菱商事	
優秀賞	ミネベアミツミ	
優秀賞	村田製作所	
優秀賞	ゆうちょ銀行	ゆうちょ銀行 統合報告書 ディスクロージャー誌 2024
優秀賞	横浜ゴム	統合報告書 2024
優秀賞	リゾートトラスト	
優秀賞	レゾナック・ホールディングス	RESONAC REPORT 2024

表 2 : 第 4 回日経統合報告書アワード 受賞理由 (詳細版)

企業名	受賞区分	主な受賞理由
デンソー	総合グランプリ	詳細かつ豊富な定量・定性データを用いた企業価値創造ストーリー、気候変動やデジタル化への戦略、人的資本生産性の記述 ¹
日本ペイントホールディングス	総合グランプリ	株主価値最大化への姿勢、少数株主への配慮、詳細なガバナンス記述 ¹
丸紅	総合グランプリ	資本規律の訴求力、電子媒体読者への工夫、丸紅人財

		エコシステムの説明 ¹
積水化学工業	グランプリ E 賞	環境・社会と経済の両立、事業部の持続的成長性、 ROIC ・資本コスト分析、適切な KPI ¹
しずおかフィナンシャルグループ	グランプリ S 賞	地域貢献と企業価値向上ストーリー、広域展開のポテンシャル、気候変動・生物多様性への記述、具体的な事実と事例 ¹
積水ハウス	グランプリ S 賞	労働安全への開示充実、ハラスメント対策制度、実効的な社外役員選任理由とメッセージ ¹
栗田工業	グランプリ G 賞	優れた ESG 開示、充実したガバナンス関連開示（実効性評価、役員報酬、スキルマトリックス）、委員会委員長のメッセージ ¹
旭化成	準グランプリ	資本市場の問いへの真摯な姿勢、 PBR 回復への言及、事業ポートフォリオ見直し ¹
イトーキ	準グランプリ	価値創造への熱意ある社長メッセージ、弱みへの言及、具体的な人的資本記述、成果・目標の定量化への試み ¹
伊藤忠商事	準グランプリ	高いクオリティ維持、魂のこもった会長メッセージ、株式市場を意識した財務・資本政策、非財務資本

		とマテリアリティーの関連性 ¹
SWCC	準グランプリ	資本市場との目線合わせ、 ROIC の頻出、過去6年間の変化説明、パーパス浸透への言及
オリックス	準グランプリ	多様な事業と社会課題の関連性の工夫、経営方針・将来ビジョンの伝わりやすさ、明確な企業価値向上戦略、透明性の高い開示 ¹
富士通	準グランプリ	事業変革への挑戦とトップの強い意志、説得力のあるビジネスモデルと実行戦略 ⁴
エイチ・ツー・オーリテイリング	新人賞	統合報告書のポイント網羅、価値観転換の決意、資本効率改善への言及、分かりやすい投資戦略、充実したサステナビリティ開示 ¹
大塚ホールディングス	優秀賞	各事業の方向性と関連性の明確化、社会貢献と長期的な企業価値創造、豊富な定量データ ⁷
麒麟ホールディングス	優秀賞	CSV 経営を中心とした戦略と成果、強いリーダーシップ、明確な企業理念と価値創造モデル、無形資産の分析、人的資本開示の充実
クボタ	優秀賞	独自のマテリアリティーと長期的な価値創造プロセスの

		提示、環境情報とソーシャルインパクトの説明 ⁹
TDK	優秀賞	長期ビジョンと中期計画の明確化、財務・非財務情報のバランス、理解しやすいストーリー性
戸田建設	優秀賞	市場環境の数値データ開示、人財戦略と経営戦略の連動、透明性の高いガバナンス、明確な価値創造プロセス、新本社ビル活用と再生可能エネルギー事業 ¹
ゆうちょ銀行	優秀賞	新社長の視点からの明確な方向性、財務戦略と ESG に関する記述の充実度
横浜ゴム	優秀賞	新中期経営計画を通じた共有価値創造、高い透明性、詳細な市場分析と ESG 開示、自然資本との関係
レゾナック・ホールディングス	優秀賞	パーパスと理想像を示す強いメッセージ、企業文化改革への取り組み、経営層の責任感と熱意
Honda	優秀賞	事業戦略と重要テーマを中心とした内容の充実化による投資情報の有用性

引用文献

1. 「第4回日経統合報告書アワード」にて優秀賞を受賞 | 新着情報 ..., 3月17, 2025 にアクセス、https://www.toda.co.jp/news/2025/20250312_003478.html
2. 「第4回日経統合報告書アワード」で優秀賞を受賞 | News Releases ..., 3月17, 2025 にアクセス、<https://www.resonac.com/jp/news/2025/03/13/3454.html>
3. キリンググループ「統合レポート 2024」が「第4回日経統合報告書 ..., 3月17, 2025 にアクセス

- ス、 https://www.kirinholdings.com/jp/newsroom/release/2025/0311_01.html
4. 「第4回日経統合報告書アワード」で準グランプリを受賞, 3月17, 2025にアクセス、
<https://pr.fujitsu.com/jp/ir/news/20250313-01.html>
 5. 「第4回日経統合報告書アワード 優秀賞」を受賞しましたーゆうちょ ..., 3月17, 2025にアクセス、
https://www.jp-bank.japanpost.jp/news/2024/news_id002213.html
 6. 「第4回日経統合報告書アワード」にて「優秀賞」を受賞 | TDK, 3月17, 2025にアクセス、
https://www.tdk.com/ja/news_center/press/20250312_01.html
 7. 大塚ホールディングス 第4回日経統合報告書アワード 優秀賞を初 ..., 3月17, 2025にアクセス、
https://www.otsuka.com/jp/group_news/detail.php?id=1629
 8. ニュース | 横浜ゴム、「第4回日経統合報告書アワード」で優秀賞を ..., 3月17, 2025にアクセス、
<https://www.y-yokohama.com/release/?id=4497&lang=ja>
 9. 「第4回日経統合報告書アワード」において優秀賞を受賞 | ニュース ..., 3月17, 2025にアクセス、
<https://www.kubota.co.jp/news/2025/management-20250313.html>
 10. 『第4回日経統合報告書アワード 準グランプリ』を受賞！ | SWCC株式会社のプレスリリース, 3月17, 2025にアクセス、
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000026.000133032.html>